

小学校第6学年 社会科 学習指導案

期 日 平成21年9月25日（金）第5校時
場 所 天草市立新和小学校 第6学年教室
指導者 教諭 梅田 浩範

1 単元名
「新しい時代の幕あけ」（教育出版6上）

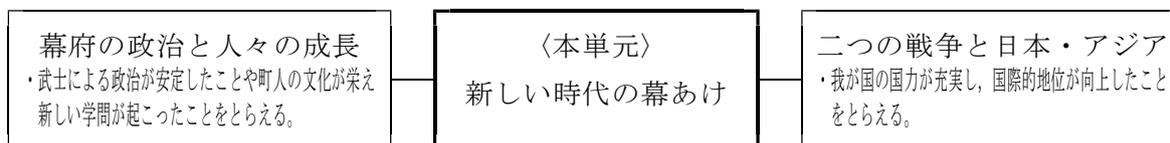
2 単元について

(1) 本単元は、学習指導要領社会編第6学年の内容(1)の力を受け、江戸時代末期から明治時代初期にかけての黒船来航、明治維新、文明開化を具体的に調べることを通して、我が国が様々な改革を行い、西洋諸国の文化を取り入れつつ近代化を進めたことをとらえることをねらいとして設定されたものである。

アメリカ合衆国のペリーが率いる黒船の来航をきっかけとして、約260年間続いた江戸幕府が倒れ、我が国は近代国家へと歩み始める。その近代国家への歩みは、これまでの我が国の歴史には見られなかった急激な変化であり、西洋諸国の文化を取り入れて人々の生活が飛躍的に向上する面と、地租改正や徴兵制などの政策によって人々の生活が圧迫されるという両面があった。

このような社会の急激な変化と日本を取り巻く厳しい世界情勢の中で、当時の人々が何を思い、考え、行動していったかということに迫らせることは、現在の我が国の社会の仕組みや生活様式の成り立ちを知る上でも重要であるとともに、さらなる変化が予想される未来に生きる児童に大変意義深いことであると考えられる。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。



(3) 本単元に係る児童の実態は次のとおりである。

本学級の児童数は17人（男子9人、女子8人）である。事前に行ったアンケートによる実態調査では、本学級の児童全員が歴史学習は「楽しい」と答えている。その中でも、11人の児童が「とても楽しい」と答えているが、その理由としては、「歴史上の人物のエピソードについて調べることが楽しいから」「過去にあった出来事を調べたり、考えたりすることによって、今まで知らなかったことが分かるから」などがあつた。一方、「まあまあ楽しい」と答えた児童の理由として、「歴史上の出来事の意味を考えたり、人物の名前を覚えたりすることが難しい時があるから」などがあつた。

また、自分の考えや意見を発表することに対しては、「好きである」と答えた児童が9人いる一方で、「相手によく伝わるような発表の仕方が分からない」「自分の考えや意見に自信がない」という理由で苦手意識を持っている児童が8人いた。

次に、前単元までの評価問題の結果を分析してみると、社会的事象についての理解や一つ一つの資料からの必要な情報の取り出しは全員が概ねできているが、社会的事象の前後の流れや時代背景についての理解や、資料を関連付けて考え、総括的に文章でまとめる点で個人差が大きいという結果が見られた。

したがって、本学級の児童は、社会的事象についての知識・理解は概ね定着しているものの、複数の資料や社会的事象を関連させて考えたり、社会的事象の裏付けとなる理由や因果関係を考え、自分の言葉で表現したりする力の定着が不十分であると言える。

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

○ 本単元で扱う我が国の近代の歴史は、政治や経済の仕組み、日本を取り巻く世界情勢、人々の生活様式など、そのどれをとっても複雑で急速な展開を見せるため、児童にとっては理解が困難になる場合がある。そこで、資料となる写真や図、グラフについては精選を行う。また、単元の終末時に、本単元で学習した主な出来事を年表にまとめさせ、本単元の学習内容の確実な定着を図っていく。

- 本単元の導入時に、開国前後の横浜の様子と比較から気付いたことや疑問に思ったことをカードに書かせ、それらを整理・統合しながら本単元を貫く学習課題を設定することで、単元を通した学習意欲と課題意識を持たせていく。
- 当時を生きる人々の思いや願いに迫らせるために、当時の人々の立場に立って、「もし、自分が〇〇だったら…」と考えさせたり、当時の様子が描かれた風刺画や場面画に吹き出しを設け、せりふを書き込む活動を設定したりする。
- 複線型で調べ活動を行う際には、調べたことをグループや全体で出し合う活動を設定したり、児童がまとめた作品を掲示したりして、情報の共有化を図っていく。
- 児童が調べ活動に主体的に取り組めるようにするために、学校司書の協力を得ながら本単元の内容に関する資料や図鑑を収集し、教室に「幕末・明治もの知りコーナー」を設ける。また、学校教育制度の始まりについて学習する際は、児童にとって最も身近な本校の歴史コーナーの資料を効果的に活用していく。

〈思考力、判断力、表現力の育成を図るための言語活動の視点〉

- 資料から情報を取り出し、解釈する場面では、資料から分かったことや感じたこと、考えたことを記述したり、発表したりする活動を設定することで、文章や図表、グラフなどから様々な情報を的確に読み取ったり、感じ取ったことを様々な方法を用いて表現したりする力の定着及び向上を図っていく。
- 学習課題に対して自分の考えを持つ場面では、資料から読み取った内容を踏まえて自分の考えを記述する活動を設定することで、事実と意見とを区別し、根拠を明確にして考える力を身に付けさせていく。その際、自分の考えがまとまらなかったり、表現できなかったりする児童には、意見論述の型を示したワークシートを用意する。
- 自分の考えを表現する場面では、全体での共同解決を行う前にペアによる対話活動を設定することで、自分の考えを整理させたり、これまでは気付かなかった新たな見方や考え方を引き出させたりするとともに、根拠のはっきりとした自分の考えや意見を表現する力の定着及び向上を図っていく。
- 単元各時の終末には、評価カードを使った自己評価活動を設定する。その際、自分の考えの変容を文章化させることで、児童一人一人に自らの思考の深化を自覚させるとともに、考えることや学び合っていくことのすばらしさを感じ取らせていく。
また、本単元の終末時には、これまでの学習内容と単元を貫く学習課題に対する自分の考えをB4用紙1枚にまとめる活動を設定することで、自らの力でまとめ、表現する力の定着と向上を図るとともに、表現の工夫やよさをお互いに学び合っていけるようにする。

〈人権教育の視点〉

- 解放令が出された後も続く身分差別に対し、その差別をなくすために努力を続けた人々の姿や自由民権運動に込められた人々の願いを学習することを通して、自由と平等の尊さを感じ取らせていく。
- 一人一人の児童の学習状況に応じてワークシートを配付したり、補助発問や言葉かけをしたりするなどの適切な支援を積極的に行い、学力の定着及び向上を図っていく。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	江戸時代末期から明治時代初期にかけての社会の様子について調べ、明治政府が様々な改革を行い、西洋諸国の文化を取り入れながら、近代化を進めていったことをとらえることができる。
社会的事象への 関心・意欲・態度	江戸時代末期から明治時代初期にかけての社会の変化や、明治維新で活躍した人々の働きに関心を持ち、それらを意欲的に調べようとしている。
社会的な思考・判断	西洋諸国に負けない近代国家をつくろうとした当時の人々の願いや明治政府が進めた様々な政策の目的について、江戸時代の出来事や外国との関係と関連付けながら考えることができる。
観察・資料活用の 技能・表現	年表や写真、図などの資料を活用しながら、明治政府の中心となった人物の働きや政治の仕組み、社会の変化を調べるとともに、調べた結果から根拠を明確にして自分の考えを表現できる。
社会的事象についての 知識・理解	西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允らを中心とした新政府が様々な改革を行い、西洋諸国の文化を取り入れながら、近代的な国づくりを進めてきたことを理解している。

4 指導・評価の計画（10時間取扱い）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※言語活動とその留意点	評価項目（方法）
1	1	○開国前後の横浜の図から、街や人々の様子の変化について気付いたことや疑問に思ったことを出し合い、単元を貫く学習課題を設定する。	・児童から出た気付きや疑問を整理 ・統合しながら、本単元を貫く学習課題を設定する。 ※2枚の図の比較から気付いたことや疑問に思ったことをカードに書かせ、出し合わせる。	【関心・意欲・態度】 開国前後の街の様子や人々の様子の変化に関心を持ち、気付いたことや疑問に思ったことを意欲的に発表している。 (カード・発言)
江戸時代の末から明治時代にかけて、日本はどのように変わっていったのだろう。				
2	2	○ペリーが来航した目的や幕府の対応について調べるとともに、西洋諸国と結んだ条約が日本にとって不平等な内容であったことをとらえる。	・西洋諸国と結んだ条約の内容について具体例を挙げて、日本にとってたいへん不利だったことをとらえさせる。 ※開国の影響について理解を深めるため、開国に「賛成」「反対」に分かれて意見を出し合わせる。	【知識・理解】 開国を要求するペリーに屈した江戸幕府が、関税自主権がなく、治外法権を認めた不平等条約を西洋諸国と結んだことが分かっている。 (ノート)
	3	○開国が人々の暮らしに与えた影響や討幕運動の中心となった人々の業績について、図やグラフ、歴史人物辞典などを使って調べる。	・開国による人々の暮らしの変化と倒幕運動の高まりを関連付けて調べさせていく。 ※調べて分かったことを整理してまとめさせるとともに、お互いに交流し合っ情報共有化を図っていく。	【技能・表現】 開国による人々の生活の変化や、坂本龍馬、西郷隆盛などの業績について、図やグラフ、歴史人物辞典などを使って調べている。 (観察・ノート)
	4	○五か条の御誓文の公布や、廃藩置県、四民平等などの改革によって、明治政府がどのような国づくりを目指したのかを考える。	・「五か条の御誓文」と「廃藩置県」に関する資料から一つを選択させ、学習課題に対する考えを持たせる。 ※ペアによる対話活動を設定し学習課題に対する考えを整理させたり、深めさせたりする。	【思考・判断】 明治政府が五か条の御誓文の公布や廃藩置県、四民平等によって、天皇中心の国づくりを目指していたことに気付いている。 (発言・ノート)
	5 本時	○官営工場の設立や徴兵令などの政策によって、明治政府がどのような国づくりを目指したのかを考える。	・「官営工場の設立」や「徴兵令」に関する資料から一つを選択させ、学習課題に対する考えを持たせる。 ※ペアによる対話活動を設定し学習課題に対する考えを整理させたり、深めさせたりする。	【思考・判断】 明治政府が西洋諸国に追いつくために、官営工場の設立や徴兵令によって、豊かな経済力と強い軍事力を持った国づくりを目指していたことに気付いている。 (ノート)
	6	○江戸幕府と明治政府の税の比較から地租改正の目的について考える。	・江戸幕府と明治政府の税の比較を表にまとめて提示する。 ※ペアによる対話活動を設定し学習課題に対する考えを整理させたり、深めさせたりする。	【思考・判断】 明治政府が国の財政を安定させるために、地租改正を行ったことに気付いている。 (発言・ノート)
	7	○学校教育制度や文明開化による人々の暮らし	・人や物、文化、制度の面から暮らしの変化を調べさせていく。	【技能・表現】 明治時代の人々の暮らしの様子

	の変化を図や写真，グラフを使って調べる。	※現在の自分たちの生活との関わりについて感じたことをまとめさせていく。	を江戸時代や現代と比較しながら調べている。 (観察・ノート)	
8	○自由民権運動の演説会の絵にせりふを書き込みながら新しい政治に対する国民の願いについて考える。	・自由民権運動の演説会の絵をもとに，弁士，警官，聴衆それぞれの発言を考えさせる。 ※ペアによる対話活動を設定し学習課題に対する考えを整理させたり，深めさせたりする。	【思考・判断】 明治政府に対して，国民が自由民権運動を通して，自由と権利を認めることを要求していたことに気付いている。 (発言・ノート)	
9	○大日本帝国憲法の内容や憲法制定と国会開設までの経緯を調べ，近代国家として我が国の体制が整ったことをとらえる。	・自由民権運動の要求や五日市憲法案との比較を通して，明治政府が天皇を中心とした国づくりを目指していたことをとらえさせる。 ※大日本帝国憲法制定までの経緯や国会開設までの経緯を年表にしてまとめさせる。	【知識・理解】 ドイツの憲法を参考にしながら，伊藤博文が中心となって憲法制定を進めたことや，自由民権運動の高まりによって国会が開設されたことが分かっている。 (ノート)	
3	10	○本単元の学習内容や単元を貫く学習課題に対する自分の考えをB4用紙1枚にまとめる。	・罫線が入ったB4用紙を用意するとともに，まとめる視点を提示する。 ※学習内容や単元を貫く学習課題に対する自分の考えを図や表，グラフなどを使って整理させる。	【技能・表現】 これまでの学習内容や単元を貫く学習課題に対する自分の考えを整理してB4用紙1枚にまとめている。 (作品)

5 本時の学習

- (1) 目標 明治政府が西洋諸国に追いつくために，官営工場の設立や徴兵令によって，豊かな経済力と強い軍事力を持った国づくりを目指していたことに気付くことができる。〈社会的な思考・判断〉
- (2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 10分	1 本時の学習課題をつかむ。 【一斉】 2 資料をもとに，学習課題に対する自分の考えを持つ。	T この絵は当時の日本と西洋諸国との関係をフランス人のビゴーという人が描いた絵ですが，日本はどんなことをしたかと思っていますか。 C 西洋諸国の仲間に入りたかかっていますか。 T それは，どんな様子から分かりますか。 C 腰を低くして，笑っているところから分かります。 T 一方，西洋諸国は日本をどう見ているかと思っていますか。 C 日本は自分たちと対等な国ではないと見ているかと思っています。 T なぜ，対等な国とは見ていないのでしょうか。 C 日本は自分たちの国と比べて，いろいろな面で遅れているからです。 T 西洋諸国と対等な国になってこの仲間に入るためには，日本はどんな努力や工夫をすればいいかと思っています	※ ビゴーの風刺画から読み取った情報をもとに，当時の日本と西洋諸国との関係をとらえさせる。 また，本時の学習課題につなげる発問を行うことで，本学習への課題意識を持たせる。	ビゴーの風刺画

	【個人】	か。 C 西洋諸国のような強い軍隊を持つ努力をすればいいと思います。		
明治政府は、西洋諸国の仲間に入るために、どんな努力や工夫をしたのだろう。				
展開 30分	<p>3 学習課題に対する考えを互いに交流し合う。 【ペア⇒全体】</p> <p>(1) ペアになって、互いの考えを交流し合う。</p> <p>(2) ペアでの交流を踏まえながら、自分の考えを整理する。</p> <p>(3) 整理した自分の考えを全体に発表する。</p> <p>4 明治政府が西洋諸国に追いつくために目指した国づくりについて考える。 【個人】</p>	<p>T 二つの資料を見た後、もっとじっくりと調べてみたい方を選び、学習課題に対する自分の考えをノートに書きましょう。</p> <p>T 根拠となる資料を示しながら、お互いの考えを交流し合しましょう。</p> <p>C 官営工場の設立についての資料から、全国各地で政府が工場などを経営していたことが分かります。このことから、明治政府は工業を盛んにする努力をしていたと思います。</p> <p>C 官営工場の設立についての資料から、機械化によって生産を増やし、輸出量を大きく伸ばしたことが分かります。このことから、明治政府は国のお金を増やす努力をしていたと思います。</p> <p>C 徴兵令についての資料から、明治政府がすべての国民から兵士を集めようとしていたことが分かります。このことから、明治政府は兵隊の数を多くする努力をしていたと思います。</p> <p>C 徴兵令についての資料から、軍隊にかかる費用を多くしていることが分かります。このことから、明治政府は強い軍隊を持つ努力をしていたと思います。</p> <p>C 官営工場で得たお金で、兵隊を雇ったり、武器を買ったりして軍隊を強くしていくような工夫をしたと思います。</p> <p>T これまでの友達との交流を踏まえ明治政府が西洋諸国の仲間に入るために、どんな国づくりを目指したのかをノートにまとめてみましょう。</p> <p>C 明治政府は、西洋諸国の仲間に入るために、官営工場の設立や徴兵令によって、豊かな経済力と強い軍隊を持つ国を目指しました。</p>	<p>○ 「官営工場の設立」と「徴兵令」に関する資料を配付し、ペアで分担して調べさせる。早く終わったら、もう一方の資料とも関連付けて考えてよいことを指示する。</p> <p>※ 自分の考えがまとまらなかったり、表現できなかったりする児童には、意見論述の型を示したワークシートを配付する。</p> <p>※ 全体での共同解決を行う前にペアによる対話活動を設定することで、自分の考えを整理させたり深めさせたりするとともに、根拠を明確にした表現方法の定着を図る。</p> <p>○ 全体での共同解決の際には、児童が調べた資料と同じものをスクリーンに映し出し、説明しやすいようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価</p> <p>B：明治政府が西洋諸国に追いつくために、官営工場の設立や徴兵令によって、豊かな経済力と強い軍力を持った国づくりを目指していたことに気づき、ノートにまとめている。 【ノート】</p> <p>A：明治政府が西洋諸国に追いつくために、豊かな経済力と強い軍力を持った国づくりを目指していたことを官営工場の設立と徴兵令とを関連付けて考え、発言したり、ノートにまとめている。 【発言・ノート】</p> </div>	<p>「官営工場の設立」と「徴兵令」に関する資料</p> <p>ワークシート</p> <p>スクリーン</p> <p>評価カード</p>
終末 5分	5 学習の振り返りを行う。 【個人】	T この時間の学習の振り返りを行いましょう。	※ 自分の考えの変容を評価カードに文章で記述させる。	